

**[成果情報名] 水稻「にこまる」の刈取晩限**

**[要約]**6月下旬に移植した「にこまる」の刈取晩限は、品質および収量の推移からみて成熟期の6日後である。

**[キーワード]**にこまる、刈取、光沢

**[担当]**総合農林試験場・作物園芸部・作物科

**[連絡先]**電話(代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

**[区分]**農産

**[分類]**普及

---

**[背景・ねらい]**

水稻「にこまる」は県内主要品種「ヒノヒカリ」に比べやや多収かつ同等以上の良食味を有し、平坦地を中心に推進しているが、成熟期があまり離れておらず、集荷時の競合回避が推進地域から強く求められている。作期分散は競合回避の解決策として有効であるが、水系の都合もあり、同一移植時期という条件での解決策が求められている。そこで、「にこまる」の遅刈の可能性について検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「にこまる」の収量は成熟期（圃場の黄化籾85～90%）6日前から14日後までほぼ同等である（表1）。
2. 「にこまる」は成熟6日後まで玄米光沢が良好であるが、それ以降は光沢が落ちる。また、検査等級も同様に成熟6日後以降低下する。品質低下の主な要因は2005年が玄米光沢低下であり、2007年が玄米光沢低下および未熟粒の増加である（表1、図1）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 県内「にこまる」推進地域の栽培指導上の参考とする。

表1 収量品質調査

試験年次	刈取日 月/日	成熟前後日数	積算気温 (°C)	黄化 割合 %	籾水分 %	玄米重 (kg/a(%) )	検査等級 (1~9)	玄米光沢 (○~×)	玄米品質				
									青未熟	薄茶米	白未熟	心白	他未熟
2005	10/3(-4)		975	69.3	—	50.1(100)	2.5	○	10	1	2	2	11
	10/6(-1)		1045	76.0	—	50.3(100)	2.0	○	8	1	1	4	16
	10/9(+2)		1114	79.7	—	49.5(99)	2.0	○	7	2	2	3	15
	10/12(+5)		1185	84.3	—	52.6(105)	3.0	○	5	5	2	5	14
	10/15(+8)		1256	90.7	—	51.2(102)	3.0	△	1	6	2	3	17
	10/18(+11)		1318	—	—	48.4(96)	4.0	×	1	7	3	2	19
	10/21(+14)		1377	—	—	51.4(102)	4.0	×	1	8	1	6	23
2007	9/27(-6)		853	57.4	28.4	55.6(105)	6.0	○	12	3	2	8	12
	9/30(-3)		930	72.1	25.8	54.1(102)	6.0	○	7	2	1	7	25
	10/3(0)		1005	76.8	25.5	52.9(100)	6.0	○	3	4	2	7	28
	10/6(+3)		1082	92.0	22.9	55.2(104)	6.0	○	1	4	1	6	34
	10/9(+6)		1159	—	—	54.3(103)	6.0	○	0	3	2	7	35
	10/12(+9)		1225	—	—	53.5(101)	7.0	△	1	4	1	7	42
	10/15(+12)		1288	—	—	54.4(103)	7.0	△	1	3	1	11	42

注) 2006年は台風13号(9/17)の大きな被害を受けたのでデータから除外  
 移植期(2005/6/23,2007/6/22)、出穂期(2005/8/27,2007/8/27)、成熟期(2005/10/7,2007/10/3)、成熟積算気温(2005:1,070°C、2007:1,005°C)  
 登熟積算気温は近隣の長崎海洋気象台データ活用 直線距離約12km 標高:農林試2m、気象台27m  
 黄化割合は株の最長稈穂における黄化割合  
 籾水分は株の最長稈穂における水分比率  
 (比率)の基準は成熟期頃(2005/10/6,2007/10/3)における玄米重  
 検査等級は1:1等上~9:3等下(長崎農政事務所)  
 玄米光沢は○:良好~△:やや不良~×:不良(長崎農政事務所)  
 玄米品質の白未熟は背白、基白および乳白の合計  
 m<sup>2</sup>当初数は2005年10月6日刈取:32,100粒、2007年10月3日刈取:25,600粒

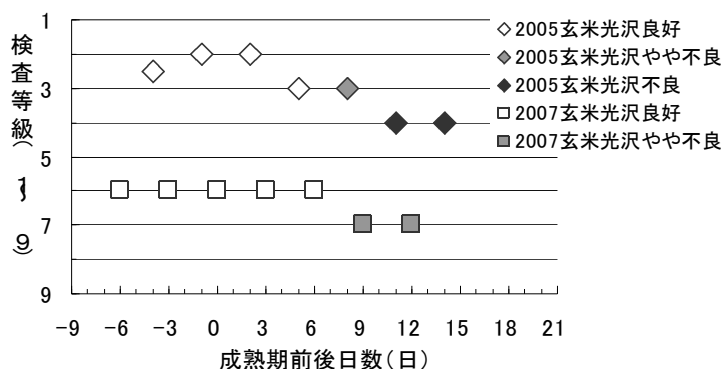


図1 成熟期前後における検査等級および玄米光沢の推移(2005、2007)

[その他]

研究課題名: 水稻新奨励品種「にこまる」の栽培技術確立  
 予算区分: 県単  
 研究期間: 2005~2007年度  
 研究担当者: 大脇淳一、古賀潤弥、下山伸幸